

2025
VOL.118
January

1

Cheers!

なでしこチアーズ

救急拠点としての推進体制強化
全ての人へ「医療」と「安心」を届ける

Cover& Interview — 院長 本間照 / 看護部長 佐藤志津子 / 事務部長 阿部健博



Contents

紹介患者さん「完全予約制」について

救急拠点推進室より

救急拠点構築の進捗状況

第21回「済生会いきいき健康セミナー」
5年ぶりの開催

「福祉・介護・健康フェア」
2024 in新潟」に出展

第17回「医療連携総会・研修会」を開催

新潟市産後ケア事業

「産後宿泊ケア」サービスを開始

今月のレシピ チーズ入り鱈ごまフライ

登録医訪問 まさご皮膚科クリニック(西区)

職場訪問 地域医療連携室

救急拠点としての推進体制強化 全ての人へ「医療」と「安心」を届ける

新年あけましておめでとうございます。

当院にとって前年は「変革」の一年となりました。

2023年に新潟市における救急医療の拠点病院に選ばれたことを受け、2024年は院内の体制強化と院外との連携に取り組む、救急車の受入れに成果を挙げています。

救急車との迅速な連絡が可能なホットラインの開設、救急車の安全を確保するための専用駐車場の整備、速やかな入院につながる病棟の再編、ICU(集中治療室)・HCU(高度治療室)の増設のほか、原則として産婦人科、小児科を除く全診療科での事前予約制の開始など、さまざまな新しい取り組みにチャレンジしました。

病院運営に関わる院長・看護部長・事務部長に、2025年はどんな年になっていくのか、新年の展望を伺いました。



看護部長 佐藤 志津子
SATO Sizuko

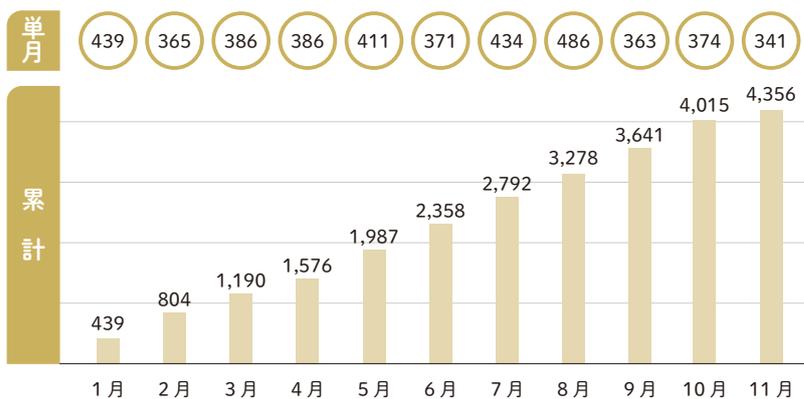
最近の業務

昨年に引き続き、救急医療拠点病院の選定を受け、看護部一同、心を一つにして業務に当たることができるよう、システム作り・人材育成・業務の効率化に力を入れてきました。まだまだ途中ですが、急性期病院として救急車の受入れに尽力しながら、患者さんに寄り添った看護・診療の補助業務の両方を兼ね備えた看護師を育てることが私の仕事です。

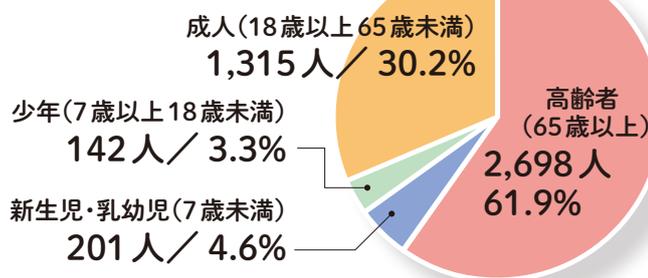
救急車受入れ台数について

積極的に救急車の受入れに注力してきたこの1年間。累計台数は11月までで4,356件となりました。新潟市内では、新潟市民病院に次ぐ受入れ件数です。救急搬送者の内訳は高齢者が約6割、成人が約3割。高齢者の中でも特に多いのが75歳以上の後期高齢者です。毎月本誌 p.8 で救急拠点推進室より「救急拠点構築の進捗状況」を掲載していますので、当院の救急受入れ体制をぜひご覧ください。

救急車の受入れ台数



救急搬送者の年齢別構成





事務部長 阿部 健博
ABE Takehiro

最近の業務

事務部門と事務職員を取りまとめ、院長を補佐しながら円滑な病院運営を目指しています。現在の最重要課題は何と言っても財務体質の改善・強化。厳しい診療報酬改定の荒波を乗り越え、患者の皆さんから安心して受診・入院していただける環境づくりと、職員が気持ち良く働ける職場づくりに取り組んでいます。

院長 本間 照
HONMA Terasu

最近の業務

地域に必要とされる病院、職員がここで働きたい病院であるために、何をするかを常に考えています。ダイバーシティをしっかりと捉えて実践するには、「オレは正しい」って思う、踏み固められた自分のココロの内庭に鋤を入れなければいけない。カチカチの庭に花は咲かない(「わたしたちが正しい場所に花は咲かない」アモス・オズ)。想像力が大切ですね。オープンな心でいたいものです。

救急搬送体制の維持と
 強化に向けた見直し

—どのような一年でしたか？

本間院長 あつという間でしたな。2023年に救急拠点病院として選定されてから、救急車の受入れ台数増へのチャレンジを続けてきました。しかし、2024年に入ると「受け入れるだけ」ではいけないと気づいたのです。継続して救急車を受け入れるためには、数字にとらわれ先を急いではいけない、持続的で強固、かつ柔軟に変化に対応していける体制を構築しなければいけないことを痛感しました。

病院というものは専門家の集団組織です。スペシャリストそれぞれがベクトル合わせをして進むべき方向へ角度調整を行っていくことは簡単なことではありません。ましてや今のように医療を取り巻く社会情勢が激変していくなか、それに合わせて変化していかなければなりません。変化できるもの、変化に強いものだけが生き残っていけることを心に刻んでいます。救急拠点に選定されたとき、「覚悟」というキーワードが挙げられました。新潟市の救急医療を支えるという強い意識を、今まで以上に覚悟を持って再認識し、前に進んでいかなければいけないと思っています。



SATO Suzuko

佐藤看護部長 この一年の救急車受入れ増には想像以上に困難が続き、看護部も疲弊しているのが正直なところです。前ページのグラフでも判るように、搬送される患者さんの割合は高齢の方が多いため、全身状態・栄養・口腔・飲み込み・排泄など、日常動作をアシメント（客観的評価）して対応する必要があります。介護量も増加し、今いる看護師の人数では対応が難しくなっています。看護体制を評価・算定し、より丁寧に実行していかなければいけません。

——各分野の専門知識を持つ「認定看護師」の役割もその助けになるのでしょうか？

佐藤 当院では年間2名を公募して、認定看護師の育成を進めています。現在、院内に摂食・嚥下や認知症などの資格を持つ認定看護師が16名在籍し、多岐に渡る専門的な知見を持って各分野に特化した体制を整えています。チームを率いるその人材が、患者さんに心優しく寄り添いながら看護できる体制がこれからもっと重要になると思います。

——事務分野にとってはどのような一年でしたか？

阿部事務部長 医師不足が全国的にも問題になっている昨今ですが、当院も同様で、複数の診療科で医師が不足しています。また、薬剤師・看護補助者・調理補助者・医療クラーク（医師事務作業補助者）なども職員の確保が難しく、頭を悩ませています。

2023年度の救急車の受入れ台数は4,521台。2024年度上期の受入れ台数は2,451台で、前年度を上回るペースで推移しています。ゆとりを持ってこのペースを維持できるよう、今後も院内体制を調整していこうとしています。今まで以上に受入れ台数を増やすとなると医師・看護師など、スタッフ数を増やしていかなければ対応が難しいのが現状です。

また、重点事項は救急受入れだけではありません。当院は、2023年8月に紹介受診重点医療機関に指定されたことを受け2024年1月から患者さんが当院を受診する際は原則として事前に予約いただく

体制となりました。現在は、救急の受入れと紹介による受入れを2つの柱として、病院運営の基盤強化を図っているところです。

当院のような救急を受け持つ急性期病院は、入院後、患者さんの状態に合わせて適切な時期に、別の医療機関や施設、あるいはご自宅に移っていただく必要があります。そうでないとベッドが満床となり、新しい救急患者さんを受入れることができなくなります。このため、新潟市内の他の医療機関等と連携し、患者さんに合った医療や介護を受けられるよう調整し、患者さんを支えていく必要があります。



ABE Takehiro



HONMA Terasu

質の高い
医療提供を目指し
かかりつけ医と連携

——事前予約制となりましたが
産婦人科・小児科は？

本間 事前予約制を取り入れるこ
とで地域の各医療機関との役割を
分け、逆紹介も取り入れながら医療
連携を図っています。患者さんの
数が減っている産婦人科、小児科
に関しては、従来通り予約なしでも
利用できますのでご安心ください。

——逆紹介とは？

本間 病状が安定した患者さんに

は、経過観察を経て地域のかかり
つけ医に逆紹介という形で、当院
医師と連携して治療に当たらせて
いただく仕組みです。

——看護部や事務部門の
業務も複雑になったのでは？

佐藤 救急外来には重症者病棟で
あるICU病棟に応援体制を作っ
てもらするなど、新体制を整えてき
ました。外来が完全予約制となっ
たため、外来が完全予約制となっ
後に病棟へ応援に駆けつける体制
も開始しました。また、介護的な
業務量も増加していることもあり、
今年度中には、より細やかに体制

を整備することを目標にしていま
す。

阿部 データを分析し、「こう改善
したほうが良いのでは」「こういう
システムを取り入れたほうが機能
的では」など、いかに効率良く病
院運営を行っているかを常に考
えています。今の時代は、企画力、
分析力がますます重要となってい
ますので、そのことを病院経営に
生かしていきたいと思っています。

医療課題解決に向け
常に考え、歩み続ける

——新年の抱負を教えてください

本間 済生会熊本病院の院長から、
「いのちはのちのいのちへー新し
い医療の私たち（稲葉俊郎著）」
という本を教えていただきました。
私たち医療提供側が、一生懸命に
命を削って働いていることは患者
さんの命につながり、若い医療ス
タッフにつながっていくのだと
考えさせられました。それをどう
やって実行していくかを常に考え、
変化していきたいです。

佐藤 日本の高齢者数が
ピークを迎える「2040
年問題」を医療現場では、
懸念しています。働く看護
師も減少すると言われている
ため、それをカバーでき
る看護師を育成し、今ある
マンパワーで協力し合わな
ればいけない。「済生会新潟
で働いて良かった」と思え
るような看護部にしていく
のが目標です。

阿部 診療報酬制度は2
年ごとに改定されますが、
2024年6月の改定は当
院のような急性期病院に
とっては非常に厳しいもの
となりました。新制度に
対応すべく、ICUを4
床から6床に増やしたり、
HCUを新設するなど、病
棟の体制を変えています。
いかに安定して医療を提供
できるかを考えながら、新
年度も引き続き、健全な病
院運営に取り組んでいきたく
と思います。

(聞き手 松永春香)

CARING*RECIPE

慢性閉塞性肺疾患の方へ チーズ入り鰯ごまフライ

カルシウム・
マグネシウムが豊富な
ごまとチーズを取り入れた
いつもとちよつと違った鰯フライ



慢性閉塞性肺疾患の方は、高エネルギー・高たんぱく質食が基本となります。たんぱく質の中でも、特に筋肉のもとになる必須アミノ酸BCAA（バリン・ロイシン・イソロイシン）を多く含む食品の摂取が良いとされています。また、呼吸筋の機能を保つためにカルシウム・マグネシウムは必要な栄養素です。BCAAを多く含む鰯と、カルシウム・マグネシウムを多く含むチーズ・ごまを組み合わせ、エネルギーUPできるようにフライにした一品です。

栄養科監修／早福 歩(管理栄養士)・滝澤 妙子(調理師)
撮影／桑原 隆行(creaBOX)

材料〈2人分〉

背開きの鰯	2枚
スライスチーズ	1枚
塩胡椒	少々
小麦粉	20g
卵	1個
パン粉	50g
黒ごま	20g
〈付け合せ〉	
キャベツ	100g
ミニトマト	4ヶ
くし切りレモン	2ヶ

つくり方

- 鰯はぜいごを取るなどの処理をした後、水で洗ってキッチンペーパーなどで余分な水分を取り、軽く塩胡椒をふって下味をつけ、スライスチーズを挟む
- 小麦粉をまんべんなくまぶし、余分な粉ははたいて落とす。よくといた卵にくぐらせ黒ごまを混ぜたパン粉の順に付ける
- 170度に熱した油（分量外）で5～6分、こんがりときつね色になるまでからっと揚げる
- 付け合せに千切りにしたキャベツ、ミニトマト、くし切りにしたレモンを添えて完成



BCAA

を多く含む食品

まぐろ・かつお・
鰯・さんま・
鶏肉(胸肉)など

カルシウム

を多く含む食品

乳製品・ごま・
海藻類・小魚類・
大豆製品など

マグネシウム

を多く含む食品

ごま・海藻類・
きなこ・玄米など

● 1人分の栄養価

エネルギー	346kcal
たんぱく質	18.7g
脂質	22.9g
炭水化物	15.9g
食塩相当量	0.9g
BCAA	3166mg
カルシウム	208mg
マグネシウム	58mg

クックパッドに公開しているレシピを台所でどうぞ



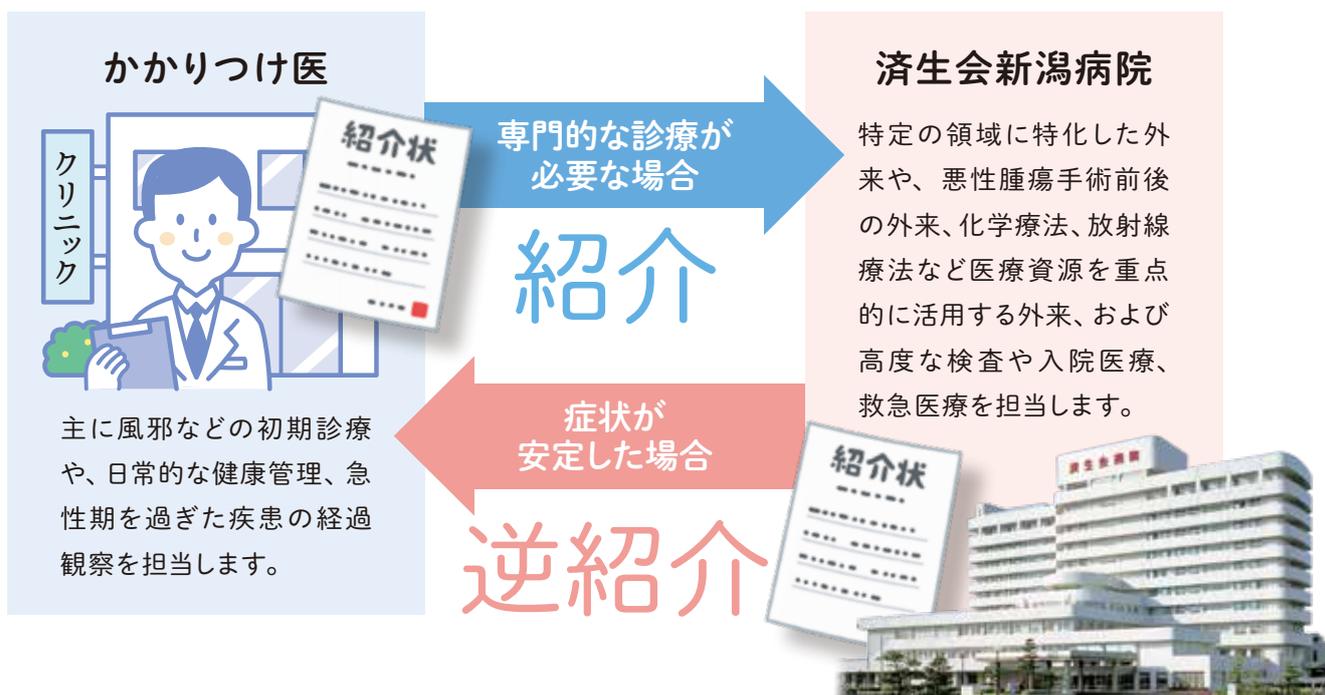
紹介患者さん「完全予約制」について

現在当院では新潟市救急医療拠点病院として、体制の整備に取り組んでおります。その一つとして「逆紹介」の推進による外来患者数のスリム化を進めている他、**全診療科『事前予約制』**とさせていただきます。

そのため、**事前の紹介予約なしに紹介状を直接持参された患者さんにつきましては、緊急の場合を除き原則として当院1階予約受付窓口で予約を取っていただき、後日受診**をしていただくことになります。

皆様におかれましては、まずは診療所などのかかりつけ医へ受診をしていただき、かかりつけの医療機関から当院の地域医療連携室を通じて紹介状を元に予約を取らせていただきます。ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

※小児科・産婦人科は、紹介状や予約なしでも受診可能です。



皆様からいただいたご意見の中らご紹介するチアーズボイス 当院へのお礼の言葉

済生会病院は設備が充実しているだけでなく、働いている全ての人々が理想の医療を目指し努力されている様子に感動しました。「YouTube」で外国の人達が、日本と自分たちの住む国を比較して、日本が「天国」のようだと言ってるのを見聞きし、日本人として生まれたことを誇りに思い、特に「医療」に関しては、その通りだと実感しております。ありがとうございました。

Progress

救急拠点推進室より

救急拠点構築の進捗状況



救急搬送時の患者情報伝達がICT化されました

新潟市消防局は、救急搬送時の受入れ医療機関への情報伝達について、1月から救急業務支援システムを導入し「ICT化」を図りました。ICT（Information and Communication Technology）とは「情報通信技術」を意味します。

救急隊から病院への受入れ依頼時の患者情報は、これまで電話により口頭で伝達されていましたが、救急業務支援システムの導入により文字や写真によるデータ送信が可能となりました。これにより情報の正確性と伝達の効率性が向上するほか、心電図モニタなど現場の状況をリアルタイムに画像で確認することができるようになり、病院では迅速に受入れ可否の判断ができるようになりました。

さらにこのICT化により、院内では搬送されてくる患者情報を複数のタブレット端末で共有できるようになったため、対応する医師と看護師が異なる場所においても同時に見ることができ、スムーズにコミュニケーションがとれるようになります。また救急隊から送信された患者情報を電子カルテに簡便に転記することができるため、業務の効率化や患者受入れまでの時間短縮に繋がることが期待されます。

●掲載内容の誤りについて
2024年12月号に掲載した
内容に誤りがありました。
訂正してお詫びいたします。

誤) ICUを6床から8床へ
正) ICUを4床から6床へ

Report

第21回

「済生会いきいき健康セミナー」5年ぶりの開催

昨年10月20日(日)に新潟ユニゾンプラザで、5年ぶりとなる「済生会いきいき健康セミナー」を開催し、当日は市内の方を中心に51名のご参加をいただきました。

今回は「糖尿病とつきあいながら、すこやかに人生をおくるヒント」をテーマに、当院の代謝・内分泌内科部長の金子正儀医師より、糖尿病についての基本的な説明から合併症や治療方法まで、後の演題に続く幅広いお話を、わかりやすい解説で講演していただきました。

その後、児玉恵理薬剤師から薬剤の種類や飲み方のポイント、力石至臨床検査技師から普段知ることの少ない検査の方法について、山本渚管理栄養士から日々の生活になじみ深い食事の話、西山陽子看護師長・小林愛希子看護師・片桐令輝看護師より災害時の備えや対応といった多彩な講義が続き、参加者たちの熱心に耳を傾ける様子や積極的に質問する姿が印象的でした。今後も、セミナーを通して皆様の健康に役立つ情報をお届けしていきます。(委員 馬場 智子)



代謝・内分泌内科部長
金子正儀医師



「福祉・介護・健康フェア2024in新潟」に出展し多くの方々と触れ合いました



昨年11月9日(土)、多種多様な事業者が参加し、新潟市産業振興センターで開催された大規模イベント「福祉・介護・健康フェア2024in新潟」に出展しました。当日は天候にも恵まれ1日で約4,000人の来場者があり、会場内はどこも大盛況。そのような中、当院は、看護師体験ができる「こども職業体験コーナー(写真右上)」と、病院事業を知ってもらう「ブース」を運営し、病院のPRに努めました。

「こども職業体験コーナー」では子どもたちが看護師のユニフォームを着用し、車いす体験やバイタル測定・妊婦体験・赤ちゃん看護などにチャレンジ。参加した子どもたちは「本物の看護師さんみたい!」と興味津々に取り組む一方、妊婦体験ではお父さんたちも参加し親子で楽しんでもらえました。将来、医療の仕事に就いてもらえたらいいなと淡い期待を持ちながら、職員も楽しい時間を過ごしました。

また「ブース」では、午前中は栄養科による「フレイル・サルコペニア簡単チェック」、午後からは予防医療センターによる「ロコモ度テスト・腸内フローラ検査の紹介」を実施し(写真左)、来場者の方々にご自身の健康を振り返ってもらいました。

親子連れからお年寄りまで本当にたくさんの人たちからお越しいただき、出展してよかったと思える内容でとても有意義な機会となりました。(総務課 吉川 未織)

第17回

「医療連携総会・研修会」を開催



副院長
坪野 俊広 医師



消化器内科部長
横山 純二 医師



循環器内科部長
畑田 勝治 医師



小児科部長
坂井 貴胤 医師



外科部長
森岡 伸浩 医師

昨年11月2日(土)に、第17回医療連携総会・研修会を開催し、診療所の先生方をはじめ院内外の多職種約80名の方にご参加いただきました。

第1部は当院の「診療科の取り組み」と題して、消化器内科部長 横山純二医師・循環器内科部長 畑田勝治医師・小児科部長 坂井貴胤医師・外科部長 森岡伸浩医師からそれぞれの診療科についてご講演いただきました。第2部は当院副院長 坪野俊広医師から地域包括ケアにおける意思決定支援をテーマに「意思決定支援だけではダメなんだ」と題してご講演いただきました。

第1部では、診療科ごとの診療体制や強み、地域連携について具体的なお話を交えながらお話いただき、第2部の坪野副院長からは、アドバンスド・ケア・プ

ランニング(意思決定支援)における話し合いと、意思決定への心づもりをしていくプロセスに医療・ケアチームが関与していくことで、本人と家族の後悔を少なくする手伝いができ、そのプロセスには本人と家族への共感が不可欠であることをお話いただきました。

今回は会場参加のみの開催とし、多くの方々と意見交換することができました。ご参加いただきました皆様には御礼申し上げます。(地域医療連携室 風間 伸介)



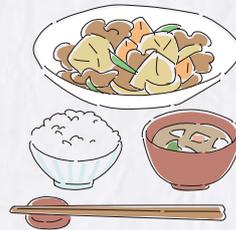
B4病棟看護師
石川 聖也さん



まず、自分の部屋は綺麗でいたい。現実には仕事帰りにリビングの照明を点けると、ため息が出てしまう。基本的に私は休日に片付けると誓う。しかし、休日の体は容易には動かない。そんな時は不思議と友人が遊びに来る約束ができる。嫌でも片付けるため部屋は綺麗になる。あれほど重かった腰が、いとも簡単に上がるのだ。私は友人にいつも感謝している。

次に食事である。看護師において、健康管理は必須である。バランスの良い食事を毎日食べたかった。お察しの通り、インスタント食品やデリバリーに手を出すこともある。楽である反面、体とお財布には優しくない。そのため、休日は料理する努力をしている。この度、母親に肉じゃがと味噌汁が公認された。

このように私は日頃、自分と向き合う難しさを痛感している。理想に向かって今日も私は生きている。



次号は

B4病棟 看護師
石原 美春さんにバトンタッチ

同じ看護師1年目として、共に勤務させていただきます。スタッフ、患者さん、関わる人に優しい笑顔でコミュニケーションを取り、仕事に取り組む姿にいつも尊敬しています。とても素敵な長所を持っていると思います。同期として、これからもよろしくお願いします。

新潟市産後ケア事業

「産後宿泊ケア」サービスを開始しました

産後はホルモンバランスの変化などで、心身が不安定になりやすい時期です。赤ちゃんと一緒に生活が始まると、育児や授乳で戸惑うこともあるでしょう。また、おうちの都合で育児のサポートをしてくださる方がいない方もいらっしゃると思います。そんなママたちが安心して育児ができるよう、当院では11月より「産後宿泊ケア」サービスを始めました。

助産師が授乳のアドバイスや赤ちゃんの沐浴、育児の相談など行いま

す。「授乳がもう少しうまくいくといいな」「赤ちゃんのお風呂の入れ方を教えてほしい」「育児に関する相談をしたい」など、ママが赤ちゃんとの生活を心から楽しめるようお手伝いさせていただきます。ぜひご利用ください。

対象者	当院でご出産された新潟市在住のお母さんと生後2ヶ月未満の赤ちゃん
利用背景	<ul style="list-style-type: none"> 産後の体調不良や育児に対する不安がある方 家族から十分な支援が受けられない方
概要	宿泊型（1泊～最長7日まで）
お母さんへのケア内容	<ul style="list-style-type: none"> 授乳・育児に対するケア 沐浴・沐浴指導 乳児の体重測定 休息・ご相談 <p>※治療目的ではないため、原則医療行為やお薬の処方などは行いません。</p>
費用例	1泊2日の利用の場合 自己負担額 合計5,000円（2,500円/日）



●ご利用を希望される方

妊娠8ヶ月～利用日の10日前までに新潟市に申請してください。電子申請、または「新潟市産後ケア事業利用申請書」をお住いの地域の区役所妊娠・子育てほっとステーション（健康福祉課）へ提出してください。QRコードより詳細をご確認ください。





2024年10月に新潟市西区真砂のメディカルゾーン内で皮膚科のクリニックを開院させていただきます。新潟大学医学部を卒業後に新潟市民病院で2年間の内科研修を行ったのちに新潟大学皮膚科に所属し、以来25年あまり皮膚科医としての研鑽を積んでまいりました。特に開院する前の14年余りは県立の基幹

Medical Partners

医療連携の頼れるパートナー

登録医訪問

皮膚科・アレルギー科

まごころ皮膚科クリニック

西区

病院で勤務し、さまざまな皮膚病に罹患してつらい経験をされてしまった患者さんたちの診療に携わっております。また皮膚腫瘍の手術も多数行っております。

当クリニックではこれまでの知識、経験、技術を生かして、学会参加や発表、論文執筆などで得た知識なども糧にしなが、地域のみなさんの皮膚疾患の治療にあたっていききたいと思っております。

皮膚に何かあれば、気になることがあればまずは相談してみようという気持ちで、当クリニックを受診してほしいと思います。今後ともよろしくお願いたします。



医師名	三井田 博(みいだ ひろし)先生						
住所	〒950-2074 新潟市西区真砂 3-11-7-1						
電話	025-378-1907						
診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～12:00	●	●	●	—	●	●	—
15:00～18:00 (17:45受付終了)	●	●	●	—	●	—	—



連携医療機関(登録医・病院)からのご紹介・ご予約について

当院の地域医療連携室までご連絡ください。

TEL.025-233-6182(直通) FAX.025-231-5763

※平日8:30～17:00(土・日・祝日を除きます)

※患者さんからの予約はお取りしておりませんのでご了承ください。

※登録医訪問に掲載ご希望がございましたら、地域医療連携室までご連絡ください。

こんにちは！地域医療連携室(以下、連携室)です。みなさんは、地域医療支援病院という名称を聞いたことがありますか？地域医療支援病院とは、その名のとおり地域の診療所や病院が連携をし、医療の提供や研修会等の開催を含めて地域医療を支援していく役割を担う病院です。当院は2002年に県から承認を受け、精密検査・入院治療が必要と判断された紹介患者さんや救急患者さんを中心に医療を提供する急性期入院型の病院です。

その中で連携室は、地域の医療機関から紹介された患者さんに対して、外来診察・検査や入院の予約調整を行っています。また、専門医療機関へ紹介が必

Workplace visit

院内で頑張るスタッフがざらり

職場訪問

地域医療連携室



要な患者さんには、紹介先の連携室を通して予約を取ったりするなど、患者さんの利便性アップを図っています。他にも、医療連携に関する多職種研修会の企画運営、医院訪問活動などにも取り組んでいます。

迅速、丁寧、確実な対応を心がけ、患者さんにとってはご自身の病態に適した医療を受けることができるように、医療連携の円滑なコーディネートに取り組んでいます。

(地域医療連携室 大澤 希美代)





こころ 躍る 毎日を。

ただ今「新型コロナウイルス感染拡大防止」のため、チラシ・イベント等の予定を変更させていただくがございます。詳しくは店内ポスター・ホームページ等でご確認ください。

毎週火曜日は火曜特売!!

UCSカード・majica会員さま



毎月 9日 19日 29日

5%OFF

UCSカード・majicaで全額お支払いください

※一部商品を除きます。※専門店は各店にてご確認ください。
※一部店舗では実施しておりません。

毎月 15日・16日 60歳以上の方限定!!

レジにて / **ハッピーパスポート**のご提示で **10%OFF**



衣料品 (インナー・靴・服飾雑貨含む)	キッチン・リビング用品 (日用消耗品は除外)	寝具 インテリア用品
医薬品 (調剤は除外)	介護用品 (介護オムツは除外)	文具・玩具・ファンシー (TVゲーム関連は除外)

●60歳以上で、パスポートにご署名されたご本人のみご利用いただけます。
●1枚で毎月ハッピーデー当日のみ、アピタでご利用いただけます。
●対象商品の取り扱いのあるアピタ店舗にてご利用いただけます。一部除外商品がございます。
●修理・加工代・送料は対象外です。
●他の割引、円引き企画をご利用いただく場合、割引率の高い方での割引となります。

発行手数料 **無料**

年齢確認できるもの(免許証等)をご提示ください。

アピタ新潟西店 新潟市西区小新5丁目7番21号 **お客様専用ナビダイヤル** ☎0570-009608

予防医療センターのご案内

「治療」から「予防」へ 予防医療の実現を目指します

- 健診内容**
- 人間ドック
 - 脳ドック
 - 肺ドック
 - 生活習慣病予防健診
 - 特定健康診査
 - 新潟市がん検診
 - 個人健診
 - 各種単独検査 等



B棟2階 予防医療センター

☎ **025-233-6669** (直通)
予防医療センター受付時間 平日9:30 ~ 11:00
お電話でのお問い合わせ時間 平日9:00 ~ 16:30

詳しい内容についてはこちらのQRコードからホームページでご確認ください



地域医療支援病院 臨床研修病院 災害拠点病院 赤ちゃんにやさしい病院

社会福祉法人 恩賜財団 済生会 済生会新潟病院

〒950-1104 新潟県新潟市西区寺地 280-7
TEL.025-233-6161(代) FAX.025-233-8880



当院 HP よりバックナンバーもご覧いただけます。

医療連携機関マップ
<http://saiseikaidaini-renkei.jp>



病院ホームページ
<http://www.ngt.saiseikai.or.jp>



こちらも注目



済生会新潟病院の
エックス ツイッター
X(旧Twitter)好評稼働中!

当院キャラクター
たけくん

